

報道関係者各位

一般社団法人東京ビエンナーレ

東京のまちを舞台に2年に1度開催する国際芸術祭  
「東京ビエンナーレ2023」秋会期がついに開幕！  
歴史、文化、現代の人々の営みを未来へつなぐプロジェクトが目白押し  
9月22日(金) 14時-メディアツアー、18時30分-オープニングセレモニー開催のご案内

東京の地場に発する国際芸術祭  
東京ビエンナーレ2023  
リンケージ つながりをつくる

夏会期 2023年7～9月(プロセス公開)  
秋会期 2023年9月23日(土)～11月5日(日)(成果展示)

東京都心北東エリア  
(千代田区、中央区、文京区、台東区の4区にまたがるエリア)ほか

TOKYO BIENNALE 2023



東京ビエンナーレ(主催:一般社団法人東京ビエンナーレ)は、東京のまちを舞台に2年に1度開催する国際芸術祭です。世界中から幅広い分野のアーティストやクリエイターが集結し、まちや人々の営みに深く入り込み、地域住民の方々と一緒に作り上げる芸術祭として始動しました。第2回となる東京ビエンナーレ2023のテーマは、「リンケージ つながりをつくる」。リンケージ(Linkage)とは、関係性=つながりを意味します。人間関係に限った事柄だけではなく、場所、時間、微生物、植物、できごと、モノ、記憶、情報等、あらゆるものが複雑に絡み合い変容しながら存在する世界に、わたしたちが見いだしていく「関係性=つながり」への希望と決心をあらわしています。

以下、開催概要とほぼすべての作品についてご紹介させていただきます。

また、来る今月9月22日(金)14時から総合ディレクター中村政人による作品鑑賞ツアーを開催、18時30分からはエトワール海渡(千代田区)にて、オープニングセレモニーを開催いたします。ディレクター、アーティストなどが一堂に会し、作品への思いについてなどをお話させて頂くほか、懇親の場を儲けさせていただきますので、是非多くの方にご参加いただければ幸いです。

【作品鑑賞ツアーについて】

9月22日(金)14時 寛永寺(東京都台東区上野桜木1-14-11)集合→御徒町 「ジュエリーと街」歩き →秋葉原 「都市の涙腺」など鑑賞 →水道橋東京ドームエリアの作品 →靖国通り優美堂「顔のYシャツ」エリア →海老原商店 →大丸有エリア →日本橋エリア →エトワール海渡リビング館

※コースは変更になることがあります。予めご了承下さい。お申込みいただいた方にはツアーの詳細をお送りします。移動はこちらでバスを用意しますので必ず事前のお申込みをお願いいたします。

作品鑑賞ツアーお申込みフォーム

[東京ビエンナーレ9月22日作品鑑賞ツアー申込フォーム - Google フォーム](#)

### 【オープニングセレモニー】

9月22日（金）18時30分-エトワール海渡ファッション館（東京都中央区日本橋馬喰町1-7）  
ディレクター、アーティストによる作品紹介、懇親会など（終了予定時刻20時）

[東京ビエンナーレオープニングセレモニー - Google フォーム](#)

お問い合わせ先 若林（080-5651-1975 [waka@sppwakabayashi.com](mailto:waka@sppwakabayashi.com)）

### 開催概要

名称 | 東京の地場に発する国際芸術祭 東京ビエンナーレ2023

テーマ | リンケージ つながりをつくる

総合ディレクター | 中村政人（なかむらまさと）・西原 珉（にしはらみん）

※ディレクターメッセージは[こちら](#)をご覧ください

会 期 | 夏会期 2023年7～9月【プロセス公開：作品が生み出される現場や過程に様々な形で参加可能】  
秋会期 9月23日（土）～11月5日（日）【成果展示：完成した作品をめぐり東京都心を街歩

き】

会 場 | 東京都心北東エリア（千代田区、中央区、文京区、台東区の4区にまたがるエリア）の  
歴史的建築物、公共空間、学校、店舗屋上、遊休化した建物等

入 場 | 無料（一部プログラムは有料※）

※ 開催場所や時間、内容等の関係上、実現のために有料制とするプログラム群で、料金はプログラムごとに設定されます。いずれも無料公開プログラムからさらに一歩踏み込み、密度の高い体験  
をご提供します。

※ 特別鑑賞券購入先は、アソビュー！・ArtSticker・Peatixからお選びいただけます。

主 催 | 一般社団法人東京ビエンナーレ

### 東京ビエンナーレ2023 公式サポーター

後援	千代田区、中央区、文京区、台東区、一般社団法人 千代田区観光協会、一般社団法人中央区観光協会、一般社団法人文京区観光協会、東京藝術大学、アイスランド大使館、イタリア大使館、オーストラリア大使館、オランダ王国大使館、カナダ大使館、シンガポール大使館、スイス大使館、タイ王国大使館、ドイツ連邦共和国大使館、トルコ共和国大使館、ニュージーランド大使館、ブラジル大使館、ベルギー大使館
特別助成	公益財団法人石橋財団
助成	公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京【芸術文化魅力創出助成】、中央区文化推進事業助成（中央区文化・国際交流振興協会）、スイス・プロ・ヘルヴェティア文化財団、SAHA Association、EU・ジャパンフェスト日本委員会
特別協賛	三菱地所株式会社

協賛	三井不動産株式会社、株式会社大丸松坂屋百貨店、大丸有SDGs ACT5実行委員会、野村不動産ホテルズ株式会社、株式会社ニューバランスジャパン、アサヒグループホールディングス株式会社、株式会社セブン&アイ・ホールディングス、東洋製罐グループホールディングス株式会社、YKK株式会社、エスビー食品株式会社、大日本印刷株式会社、株式会社ドウ・クリエーション、凸版印刷株式会社、株式会社ファミリーマート、株式会社ローソン、株式会社マイステイズ・ホテル・マネジメント
事業パートナー	FSX株式会社、株式会社東京ドーム、一般社団法人大手町・丸の内・有楽町地区まちづくり協議会、特定非営利活動法人大丸有エリアマネジメント協会
特別協力	東日本旅客鉄道株式会社、東叡山 寛永寺、株式会社エトワール海渡、無印良品 銀座店、株式会社ムラヤマ、ジュエリータウンおかちまち
協力	NTT東日本、海老原商店、株式会社大手町ファーストスクエア、神田明神、合同会社コマンドA、株式会社サンケイビル、シーフォース株式会社、正則学園高等学校、社会福祉法人千代田区社会福祉協議会、東京建物株式会社、東京都立工芸高等学校、東邦レオ株式会社、株式会社フジサワ・コーポレーション、三菱地所プロパティマネジメント株式会社、三菱商事株式会社
補助事業	令和5年度日本博2.0事業（補助型）（独立行政法人日本芸術文化振興会／文化庁）

## チケット情報

### 特別鑑賞会場のチケット（有料）について

一部の会場およびプログラムは有料です（中面参照）。開催場所や内容等の関係上、有料制とさせていただきます。無料公開プログラムからさらに一步踏み込み、密度の高い体験をご提供します。

### お得な入場券&割引クーポン付きガイドブックがおすすめ！

- ・特別鑑賞会場パスポート（ガイドブック特別版）または選べるチケット（同通常版）付き、さらに有料イベントやグッズ購入の割引クーポンも付いた1冊（下表参照）。
- ・前売は下記ウェブサイトで2023年9月7日（木）～9月22日（金）に実施します。
- ・開幕後は各特別鑑賞会場および各インフォメーションセンターでご購入可能です。

ガイドブック種別	一般 （前売）	学生 （前売）
<b>特別版</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全特別鑑賞会場に会期中何度でも入場可能なパスポート付</li> <li>・ 有料イベントやグッズの割引クーポン付（500円分×3枚）</li> <li>・ ビエンナーレ全体の情報を網羅したガイドブック</li> </ul>	¥5,000 (4,500)	¥2,500 (2,000)

<b>通常版</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 以下の特別鑑賞会場の入場チケット付（ご利用時に選択） <ul style="list-style-type: none"> <li>A. ①エトワール海渡りビング館</li> <li>B. ②寛永寺、③海老原商店、④顔のYシャツ</li> </ul> </li> <li>・ 有料イベントやグッズの割引クーポン付（500円分×2枚）</li> <li>・ ビエンナーレ全体の情報を網羅したガイドブック</li> </ul>	¥2,500 (2,000)	¥1,500 (1,000)
--	-------------------	-------------------

(表示価格は税込)

- ※パスポート、チケット、クーポンは所有者様に限り有効です。
- ※通常版のチケットは対象会場に各1回のみご入場いただけます。
- ※有効期限の有無にかかわらず、未使用クーポンの換金・返金等はいたしません。
- ※学生料金でのご購入者は購入時（オンラインご購入者は引換時）に学生証をご提示願います。

オンライン販売先：

アートステッカー [発売開始日] 9月8日金曜12:00～

<https://artsticker.page.link/tokyobiennale2023>

アソビュー [発売開始日] 9月13日水曜12:00～

<https://www.asoview.com/channel/tickets/U5LxcEaqvj/>

Peatix [準備中]

### インフォメーションセンター情報

まずはここへ！各ガイドブック（前売り含む）の引き換えや、特別鑑賞券・グッズ購入ができます。

総合インフォメーションセンター

千代田区東神田1丁目15-15 エトワール海渡りビング館1階  
電話：03-5809-1056

谷中インフォメーションセンター

台東区谷中5丁目9-21 未来定番研究所

上野インフォメーションセンター

台東区上野桜木1丁目14-11 寛永寺

神田インフォメーションセンター

千代田区神田小川町2丁目4 優美堂

丸の内インフォメーションセンター

千代田区丸の内2丁目4-1 行幸通り地下1階・東京駅側

海老原商店（プロジェクト発表会場）※グッズ購入は出来ません

千代田区神田須田町2丁目13

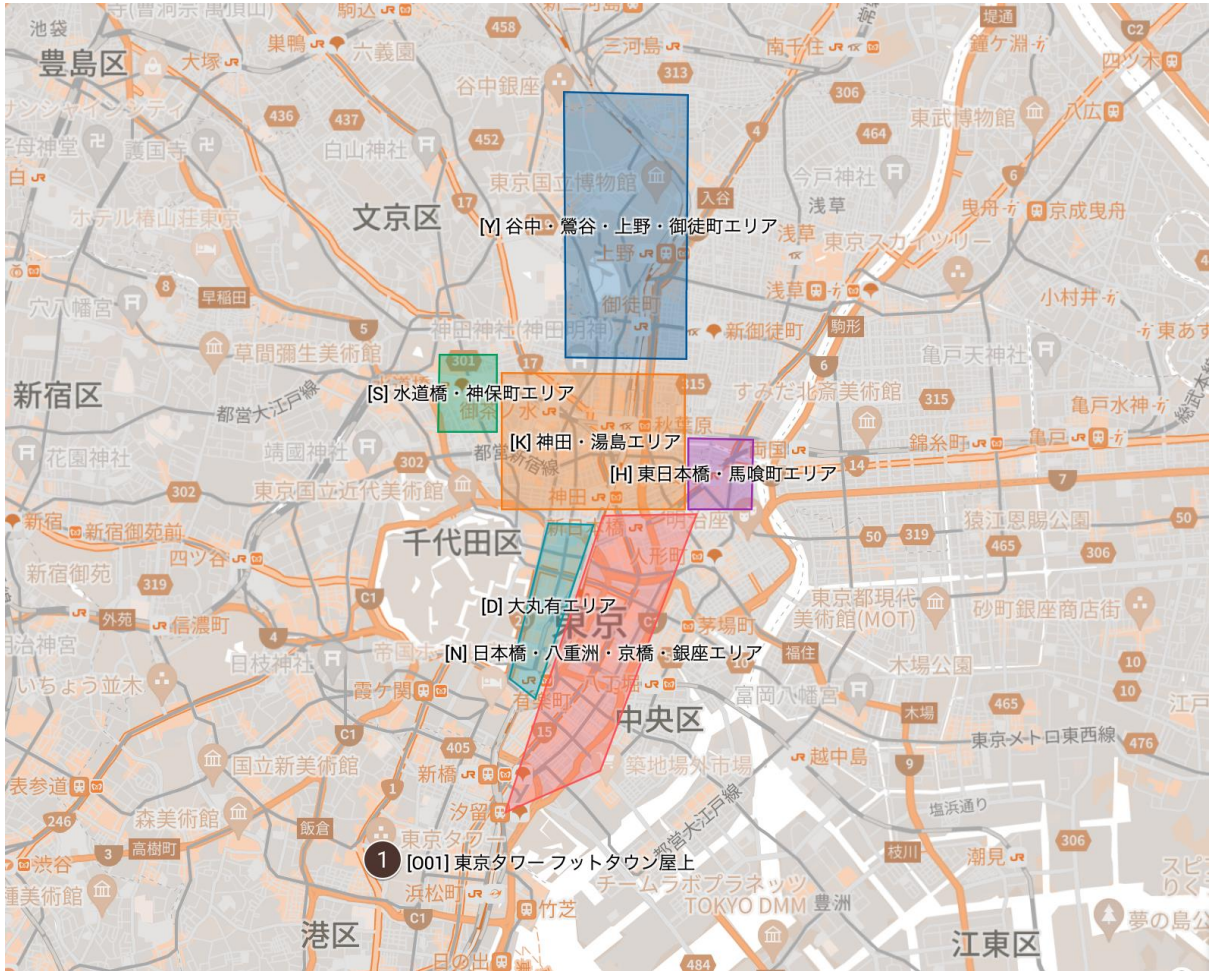
顔のYシャツ（プロジェクト発表会場）※グッズ購入は出来ません

千代田区神田小川町2丁目1



## 東京ビエンナーレ2023 実施エリア

- Y 谷中・鶯谷・上野・御徒町エリア
- K 神田・湯島エリア
- S 水道橋・神保町エリア
- D 大丸有（大手町・丸の内・有楽町）エリア
- N 日本橋・八重洲・京橋・銀座エリア
- H 東日本橋・馬喰町エリア
- O その他のエリア



Map data: Google, Maxar Technologies

## Y 谷中・鶯谷・上野・御徒町エリアの見どころ

### ▶ 東叡山 寛永寺

1625年に、徳川幕府の安泰と万民の平安を祈願するため、江戸城の鬼門（東北）にあたる上野の台地に建立された東叡山 寛永寺。2025年に創建400年を迎えるにあたり、開かれたお寺としての役割を果たすことを目指す中で、東京ビエンナーレ2023との協働が実現しました。近隣の東京藝術大学との連携を機に学生、教員等の教育・研究・発表の場としてつながり、歴史的な時間とつながる鑑賞体験を提供します。

### ● 東叡山 寛永寺で体験できるアーティスト・作品例

・ 日比野克彦 《ALL TOGETHER NOW》



日比野克彦 《ALL TOGETHER NOW (Transforming box series)》 (2022年)

撮影：池ノ谷侑花 (ゆかい)

徳川家の菩提寺である寛永寺の庭に江戸幕府15代の将軍が、一人ひとり段ボール箱の船に乗って帰ってきます。場所は、最後の将軍、徳川慶喜が蟄居していた「葵の間」と、慶喜の家来であり、日本の物流の礎を築いた渋沢栄一が妻のために建てた霊堂の間の、**通常は一般非公開の庭**。段ボール箱は、後にその箱自体が人格を持ち（物質的に変化していく姿の見立て）、庭に佇み、これまでの時間と現在とをつなぐ彫刻作品となり、VR空間でも同時に展示されます。

<https://tokyobiennale.jp/tb2023/linkage/all-together-now-kanei-ji/?lang=ja>



・鈴木理策《Mirror Portrait 一隅を照らす》



[参考図版] 鈴木理策《1868》(2022年) 展示風景、寛永寺 根本中堂  
撮影：池ノ谷侑花 (ゆかい)

鏡に向かい、自らを見つめながら、自分にとって大切な存在を想う。その姿を鏡の内側から写真撮影した「Mirror Portrait」を介して、ここにはない相手や遠い場所など、時空を超えたつながりが意識される。その感覚を観客にも感じてもらうことを目指し、2016年から取り組む肖像写真シリーズ「Mirror Portrait」の新たな試みを制作・発表します。 <https://tokyobiennale.jp/tb2023/linkage/mirror-portrait-kanei-ji/?lang=ja>

・西村雄輔《ECHO works - 回向柱》



[参考図版] 西村雄輔《ECHO works》(2022年)、寛永寺

撮影：池ノ谷侑花（ゆかい）

回向柱（えこうばしら）は、長野・善光寺の前立本尊御開帳の際に本堂の正面に立てられる角塔婆で、これに触れると前立本尊とつながり、ご利益があるといわれます。これに着想を得た西村は今回、回転する丸い回向柱を作ります。直接手で触れられる作品です。

<https://tokyobiennale.jp/tb2023/linkage/echo-works-kanei-ji/?lang=ja>

📍📍 ジュエリータウン御徒町 + ノーガホテル 上野 東京で鑑賞できるプロジェクト／作品

日本のクリエイティブを黎明期から牽引してきた小池一子と共に、参加者が日本有数の宝飾専門街である御徒町とジュエリー職人たちから学ぶ「ジュエリーと街 ラーニング」（小池一子、一力昭圭ほか）を実施。

- ・「ジュエリーと街 ラーニング」（小池一子、一力昭圭ほか）



2023年春から進行してきた活動から生まれたジュエリーをはじめとする活動の成果を秋会期に合わせ「ノーガホテル 上野 東京」にて発表。秋会期中にはコラボランチメニューも提供予定。

<https://tokyobiennale.jp/tb2023/linkage/jewelry-and-the-town/?lang=ja>

※そのほか谷中・鶯谷・上野・御徒町エリアで体験できるプロジェクト／作品

- ・「[まちが教えてくれるまち：ラーニング谷中](#)」（黒田菜月、椎原晶子ほか）

谷中で実践されてきた過去のアートプロジェクトをめぐるトーク、昔の街並みを振り返る上映会、地域内ラジオの放送、関東大震災から100年を迎えることから震災時の[動物園の避難訓練に関連する映像作品](#)（「東京のための処方\*」）の上映、ワークショップを実施。また、10/21（土）には、「特別プログラム [田中泯・柳家喬太郎 場オドリと場ラクゴ](#)」として、場に反応して縦横に変化する田中泯の踊りと、即興的で柔軟な柳家喬太郎の落語のコラボレーション企画を実施。

- ・「東京のための処方\*」 ノア・ラティブ・ランプ [スリナム／オランダ]



仏教の壮大な世界観を語る「[恒河沙 \(ガンジス河の砂\)](#)」を用いた作品を、創建からまもなく400年を迎える東叡山 寛永寺で発表。

#### \* 「東京のための処方」とは

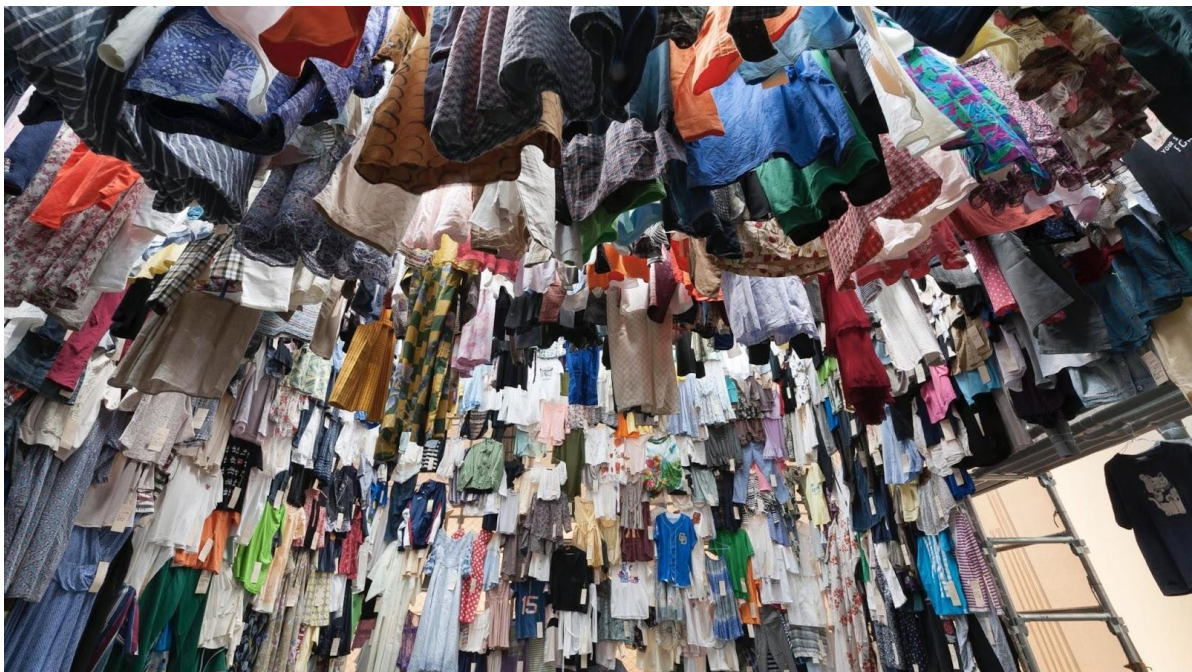
東京ビエンナーレ2023で実施するプロジェクトの一つ。民族の歴史と差別、地域の文化の可視化、ディスコミュニケーション、危機と安全、ケアと回復など、それぞれのテーマをもち、取り組みを深めている6組のアーティストたちが、作品を通じてそれぞれの世界観に基づいた東京への視点、またはフレーミングを提示していく試みです。アーティストはそれぞれ都内に分散するユニークな場を発表の会場としますが、全体として、現在の世界に横たわる様々な分断をくぐり抜け、社会が回復するための文化的処方として実施します。

<https://tokyobiennale.jp/tb2023/linkage/prescription-for-tokyo/>

#### K 神田・湯島エリアの見どころ

##### ● 神田・湯島エリアで鑑賞できるアーティスト・作品例

- ・「パブローブ：100年分の服」 (西尾美也、海老原義也ほか)



西尾美也 + 403architecture [dajiba] 《Pubrobe》2016年 「あいちトリエンナーレ2016」 展示風景、愛知県美術館

術館  
yama

撮影：Yoshihiro Kiku

パブローブとは「パブリック」と「ワードローブ」を組み合わせた造語で、服の図書館のような、誰もが利用できる公共のワードローブを作り出すプロジェクトです。アーティストの西尾美也がナイロビのマーケットから着想を得て始まったこの試みを、今回は関東大震災後の復興期に建てられた神田の看板建築・海老原商店を拠点に展開します。関東大震災から現在まで100年の間に着られた服を皆様から募集し、服の貸出、服のレプリカ制作、イベント等を実施することで、人々が生きてきた100年分の時間／生活文化をこれからの東京へとつなげていきます。

<https://tokyobiennale.jp/tb2023/event/pubrobe-100-years-of-clothing/>

- ・「私たちは、顔のYシャツ」 (中村政人ほか)



「顔のYシャツ」は1920年に創業したオーダーワイシャツ専門店。ビルの多い神田小川町に忽然と現れる大きな顔の看板がトレードマークの店です。関東大震災で罹災後、戦災にもめげずに店舗を再興し、ずっと同じ場所で営業していました。特徴的な看板は、初代店主・梶永松氏の青年時代の似顔絵をそのまま意匠に用いています。店舗は2020年初頃、惜しまれつつ閉店しました。本プロジェクトは、この「顔のYシャツ」の価値を社会的に保存するために、この「顔」を多様なメディア（絵画、写真、映像等）で作品化していきます。また建築については、解体されるまでこの歴史的な「顔のYシャツ」をひとりの人格として象徴化し、「終活」をするような活動を展開する予定です。

<https://tokyobiennale.jp/tb2023/event/we-are-kao-no-waishatsu/>

#### ※そのほか神田・湯島エリアで体験できるプロジェクト／作品

- ・「[なんだかんだ2](#)」 (池田晶紀、ゆかい)

現代の“江戸っ子”を写し出すポートレート写真プロジェクト「いなせな東京」で知られる写真家の池田晶紀が、2023年春から“あたらしい縁日をつくろう”をテーマに始めた路上実験イベント「なんだかんだ」が、東京ビエンナーレ2023版として開催。人や車の行き来が少なくなる休日の道路をより有効に活用するために、神田ポートビル前の路上を封鎖して道路全面に畳を敷き、開かれた空間を出現させます。

- ・「[ネオメタボリズム](#)」 (中村政人)

建築の解体プロセスを設計時になぜ考える事ができないのか？

組み立てる設計は丁寧にするが、解体時は石膏ボード、コンクリート塊、木くず、ガラス等がごちゃ混ぜに分別されないままミンチ解体されている。その一部が不法投棄、野焼き等により不適正に処理されている。この現実に向かい合うための建築解体方法を部材の設計からやり直し建築界全体で意識改革を進めなくてはならない。

まずはじめに「ガラス」にフォーカスを当ててそのサーキュラーエコノミー（原料→生産→消費→リサイクルのプロセス）に新たなアクションを起こします。



・《[Longing, Long Notes, Belonging](#)》 [Social Dive Projects\*\*] (クレイ・チェン [シンガポール])

音楽ジャンルを問わず、学生時代にグループとして音楽活動をしていた様々な年齢の東京在住の人々を集め、彼らに音楽活動への感情や憧れ、思い出をカメラに向かって叫んだり、長めの歌声として発声してもらった映像作品。

・《[川はどうしてわらっているの](#)》 [Social Dive Projects\*\*] (マイケル・ホンブローウ [ニュージーランド出身/バンコク在住])

皇居のお堀を通して螺旋状に水路を張り巡らせている神田川・日本橋川・隅田川は、「浮き世」と呼ばれた江戸時代の河川の水系にまで遡る、都市計画の中心的な機能を担う重要な拠点です。東京の河川の水系を巡ることで、歴史に飛び込み、未来にアプローチしていきます。

#### \*\* SOCIAL DIVE: Artist-in-Residence Projectsとは

「ソーシャルダイブ」は、東京のまちのさまざまなエリアに海外アーティストが飛び込み、そこで集い暮らす人びとが持つ魅力を見つめ、新しい価値を生み出すことを目的としたアートプロジェクトです。前回の東京ビエンナーレ2020/2021における公募プログラム「SOCIAL DIVE: Artist-in-Residence Projects」では、1,535組あまりの応募から海外アーティスト12組が選ばれましたが、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、このうち7組のアーティストのプロジェクトが実施延期となりました。東京ビエンナーレ2023では、来日が叶わなかったこれらのアーティストを改めて招聘し、作品を発表していただきます。

#### S 水道橋・神保町エリアの見どころ

##### 📍 水道橋・神保町エリアで体験できるアーティスト・作品例

・「[東京ドームシティ アートプロジェクト | アトラクティブリーアイドリング](#)」 (遠藤麻衣)

年間約4,000万人(2019年度)が来場する東京ドームシティの植栽管理/ホテル/ヒーローショー/警備のセクションで働くスタッフを取材。アーティストと東京ドームシティのスタッフがディスカッションやフィールドワークを通して顕在化した働くスタッフが現場でほっとする瞬間や休憩への要求、願望をアーティストとともに実演し作品化。

<https://tokyobiennale.jp/tb2023/event/rehearsal-for-rest/>

#### D 大丸有(大手町・丸の内・有楽町)エリアの見どころ

##### ▶ 大丸有アートアクション

大丸有(だいまるゆう:大手町・丸の内・有楽町地区の通称)エリアは、**明治時代から日本経済を先導してきたビジネスセンター**であるとともに、近代日本の黎明期にわが国で最初の劇場が建設されるなど、**100年前からワークライフと文化芸術が共にあるまちづくりを実現**してきた歴史を持ちます。120haに及ぶ範囲に多様なプレーヤーやアクションが「面」で集積しており、アートと企業のリンケージから生まれたエリア活動をまとめて、「大丸有アートアクション」と名付けました。大丸有エリアを拠点とする**先進企業のネットワークが、「その先の100年」を見据えて、クリエイションから新たなイノベーションを起こそう**としています。



- 大丸有（大手町・丸の内・有楽町）エリアで体験できるアーティスト・作品例
- ・「東京のための処方\*」 シャーロット・デ・コック（ベルギー）「[HYPERNOVA](#)」



東京の経済活動と文化芸術が交差する大丸有エリアを舞台に、ライブペインティングで屋外に大型壁画を制作。「Schön! Das Leben ist Schön!」（美しい！人生は美しい！）をスローガンに掲げ、自己の解放を訴えます。タイトルの「ハイパーノヴァ」は、人間の創造性のエネルギーと私たちを取り巻く環境との循環、つながりを意味しています。

- ・ Slow Art Collective Tokyo (Slow Art Collective)





「Slow Art Collective Tokyo」 (2022年) 制作風景、東京サンケイビル

Slow Art Collectiveはオーストラリア・メルボルン在住の加藤チャコとディラン・マートレルが主宰する芸術グループ。持続可能性や多文化共生をテーマに、竹やロープなどの自然素材、街で拾い集めた素材を用いた市民参加型のアートプロジェクトを行います。

<https://tokyobiennale.jp/tb2023/event/slow-art-collective-tokyo/>

本プロジェクトは、大手町・丸の内・有楽町地区を舞台にサステナブルなアクションを起こす「大丸有SDGs ACT5」の参加プロジェクトです。ACTメンバーポイントの対象となりますので、詳しくは公式サイト (<https://act-5.jp/act/2023act5-5/>) をご覧ください。

・IMM東京 公募展「It's Not a Cultural Showcase, but a Window to the Soul」 (IMM Open Call Project Team 2023)



岩井成昭が主宰するイミグレーション・ミュージアム・東京 (IMM東京) は、日本国内に在留する海外ルーツの人々の日常生活や、言葉だけでは伝えきれない想いを、まちなか美術展として実施しています。今回の展覧会名は「It's Not a Cultural Showcase, but a Window to the Soul」 (それは文化のショーケースではなく、心の窓)。オフィスビル等のフロアの一角にある「ショーケース」を都心の地域資源としてとらえなおし、IMM東京の展開する公募展会場として活用します。

<https://tokyobiennale.jp/tb2023/event/imm-open-call-exhibition/>

・薄久保香「すぐ傍にみつけたあなたの分身」



薄久保香《She Is. 彼女のスタイル》2023年

写真、CG、油彩と3つの制作行程を経る独自の手法で、「意識だけでコントロール出来ない世界」を描き出さず薄久保香が、この街に実在する数名の女性たちを取材し、その人物の内省的な世界を描きます。薄久保と女性たちの共同制作ともいえるこのシリーズは、複写とデジタル加工を経て「壁画」（シールプリント）として街の複数箇所に掲げられます。

<https://tokyobiennale.jp/tb2023/event/your-alter-ego-found-right-next-to-you/>

※そのほか大丸有（大手町・丸の内・有楽町）エリアで見られるプロジェクト／作品

・「[池田晶紀写真展：写真でつながる街と街～大手町・神田](#)」

大手町川端緑道（東京都千代田区大手町1-9）に設置中の仮囲い壁面を活かした、写真で大手町と神田をつなぐアートプロジェクト。写真家の池田晶紀が10年以上にわたり撮影してきた神田の人々のポートレート写真から約10点を選んだ「いなせな東京」と、大手町の植物を撮影した「s



eries “DOUBLE NATURE” 『模様』」を展示中。

#### N 日本橋・八重洲・京橋・銀座エリアの見どころ

- 📍 日本橋・八重洲・京橋・銀座エリアで体験できるアーティスト・作品例
- ・日本橋エリアを音で紡ぐ (MSCTYほか)



音楽、サウンドアート、建築を融合したユニークな活動を行うMSCTY (ニック・ラスカム+ジェームス・グリア [イギリス/日本]) がキュレーションしたサウンド・アーティストたちが、日本橋エリアに多数点在する老舗銘店への取材をもとに、サウンドスケープ作品を制作。MSCTYが制作する3曲と合わせて、9か所のロケーションをめぐるサウンドスケープ・ウォーキング・ルートを設定。東京ビエンナーレ2023とMSCTY双方のウェブサイトで、ロケーションにアクセスできる機能を搭載し、参加者は日本橋の基層文化が息づく「音の景色」を楽しみながら、日本橋エリアを歩きます。

<https://tokyobiennale.jp/tb2023/event/weaving-the-nihonbashi-area-with-sound/>

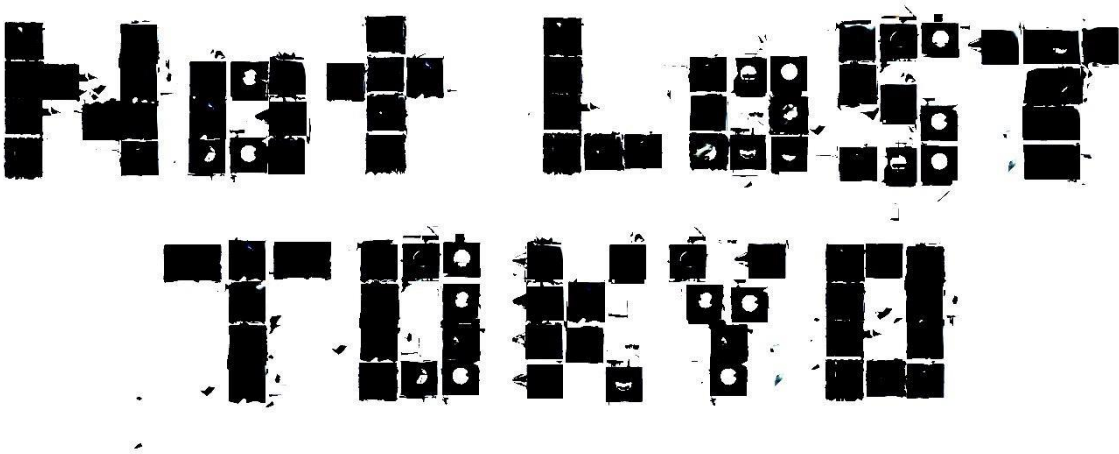
- ・天馬船プロジェクト2023/日本橋川 [タイムトライアル] (コマンドNほか)



木造和船を模した長さ約30cmのミニ天馬船1万艘が、日本橋川の流れにまかせて進む風景を楽しむコミュニティアートプロジェクト。日本橋をゴール地点として上流から一斉にスタート。地域を盛り上げ、世界に向けて日本橋川の魅力と価値を発信します。眺めるだけでなくタイムトライアル参加（一艘1,000円）も可能で、参加費の一部は、到着順に応じた記念品贈呈と、河川浄化や伝統的な天馬船制作などに活用。ミニ天馬船は杉の間伐材を使って制作されており、イベント終了後には回収・洗浄して再利用します。

<https://tokyobiennale.jp/tb2023/event/tenmasen-project-2023-nihonbashi-river/>

・ Not Lost Tokyo（並河進、瀬賀未久ほか）



Not Lost Tokyoは、変わりゆく東京の街を、3Dデータ、写真、言葉など、様々な形で「採取」「標

本」化し、街の記録・記憶を次世代に向けて、新たなかたちでつないでいくアートプロジェクトです。

メタボリズム建築の代表でもあり2022年に解体された中銀カプセルタワービルの精細な3Dデータをもとにした作品をはじめ、いくつかの実験的な作品が、人々との協働によって生まれています。

銀座松竹スクエアビル1F（東京都中央区築地1-13-1）には、人々が採取した風景や言葉、失われた建造物の3Dデータ、AIの記憶の中のイメージなどが約200点の標本として展示されます。

また、汐留シオサイトのAR観覧場所（東京都港区東新橋1丁目）からは、「新陳代謝する中銀カプセルタワービル」が出現する様子をご覧ください。

<https://tokyobiennale.jp/tb2023/linkage/not-lost-tokyo/?lang=ja>

## ※そのほか日本橋・八重洲・京橋・銀座エリアで見られるプロジェクト／作品

- ・ [「TOKYO ART FARM」](#)（近藤ヒデノリほか）



UNIVERSITY of CREATIVITY、Tokyo Urban Farmingが東京駅八重洲口・京橋エリアで開催する、「アートを通じて”東京の食と農の未来”を五感で感じ、育てる祭典「TOKYO ART FARM」。不要なスーツケースを活用した「MOBILE FARM」や首都圏の水源地の森の間伐材で制作する「LONG TABLE」での食べられるアート体験やアートパフォーマンス、ワークショップ、マルシェ、東京野菜茶会、トークプログラムを実施予定。

### [「MOBILE FARM」制作・苗植えワークショップ](#)

[「LONG TABLE」制作ワークショップ](#) 山本稜 (Spicy Architects) + 東京理科大 西田研究室  
[諏訪綾子「水源地の森からのタリスマンを受け取るリチュアル」](#)

FOOD&ART MARCHE (12組以上の出店者)

FOOD&ART WORKSHOP (6組以上の主催者)

FUTURE FOOD TALK (6つのトークプログラム)

TODO+武者小路千家「東京野菜茶会」

ソウダルア「あなたからはじまる食べられる森」

小池博史「野菜・果物とヒトから生まれる時間」



岩切章悟 × 大丸東京店 「Kakashi Art」

マーカス・メーダー 「Growth Rate」

and more

- ・ 「[おしぼりリンケージ](#)」 (会田誠、マイケル・アムターほか)

推薦アーティスト、および海外公募アーティストの計25組の原画をもとに、刺繍表現でおしぼりを作品化。プロジェクトの提携先である都内飲食店など約20軒で普通のおしぼりに混ざって提供され、来店者は刺繍されたアート作品（おしぼり）との偶然の出会いを楽しみ、また、それらが1か所に集まる展示も実施。

## H 東日本橋・馬喰町エリアの見どころ

### ▶ エトワール海渡

1902年（明治35年）創業のエトワール海渡（かいと）は、繊維・服飾品卸の集まる日本橋馬喰町にショールームを構える会員制総合卸商社。貴金属小間物製造卸として始まり、時代の変化とともに企業運営を変化させながら、ファッションから雑貨、食品まで衣食住をカバーする幅広い商品を取り扱っている。東京ビエンナーレ2023ではエトワール海渡のリビング館（千代田区東神田1丁目15-15）がメイン会場の一つとなる。

### 📍 エトワール海渡リビング館で体験できるアーティスト・作品例

- ・ 島山直哉 《陸前高田2011-2023》



「島山直哉 写真展 まっぶたつの風景」展示風景、せんだいメディアテーク（仙台）、2016年 Photo by Naoya Hatakeyama

写真家の島山直哉は、岩手県の陸前高田に生まれ育ちました。石灰石鉱山を撮影したシリーズ「LIME WORKS」、石灰石鉱山の発破の瞬間を収めた「BLAST」シリーズ等、一貫して都市と自然の関係に注目した作品制作をおこない、世界中から高い評価を得ています。2011年、島山自身

の家族が東日本大震災に被災したことを境に、地元の陸前高田を撮影し始め、そして現在も、故郷の風景を撮影し続けています。今回はその膨大な写真群のフィルムを、そのまま印画紙に密着させて原寸プリントしたコンタクトプリントを展示。畠山がシャッターを切ったカットが、そのままの順番で全てプリントされており、撮影行為の軌跡を目で追っていきます。

<https://tokyobiennale.jp/tb2023/event/rikuzen-takata-2011-2023/?lang=ja>

・藤幡正樹「超分別ゴミ箱 2023」 (藤幡正樹ほか)



《超分別ゴミ箱》(1995年) 慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス

日常的なゴミの分別を極端に推し進めた「超分別ゴミ箱」がコンビニを模した形で実現されます。日常のゴミを可能な限り洗ってお持ちください。また、プラスチックの分別について考えるラブ＝プラスチック・ワークショップでは、2023年のプラごみ状況をドキュメントしたモニュメントの制作を行っていますので、使用済みのプラスチックをお持ちください。また同時に、4人のアーティスト生形三郎(聴覚)、上田麻希(嗅覚)、ブルース・オズボーン(視覚)、安西剛(キネティック)がプラスチックについて考えた成果が展示されますのでご期待ください。

<https://tokyobiennale.jp/tb2023/event/super-sorted-garbage-bins-2023/>

#### ※そのほかエトワール海渡リビング館で体験できるプロジェクト/作品

・「[天馬船プロジェクト2023/日本橋川](#)」 [展示] (コマンドNほか)

2021年に神田川で実施したタイムトライアルのドキュメンタリー映像を含むプロジェクト全容の展示。10月29日(日)に日本橋川で実施のイベントや活動参加の受付も実施。

・「[フリーシート](#)」 [Social Dive Projects\*\*] [展示] (アーダラン・アラム [イラン・ドイツ] + ペドロ・カルネイロ・シルヴァ [ブラジル])

ブラジルの音楽家ペドロ・カルネイロ・シルヴァと、イラン・ドイツのコンセプチュアル・アーティスト&映像作家アーダラン・アラムとのコラボレーション作品。キーボードとヘッドホン付きの椅子が街中に置かれ、椅子に座った人それぞれに即興で音楽が奏でられます。街を歩



く人に一瞬立ち止まってもらい、公共空間の中で別の領域に飛び込むように誘うもの。

- ・《[CORALS](#)》 [Social Dive Projects\*\*] (マルコ・バロッティ [ドイツ])

珊瑚の生態系を模したキネティック・サウンド・スカルプチャー。海面温度、海洋酸性化、紫外線、海流、海面上昇や珊瑚礁の白化に関する環境データに基づいた海洋条件を分析できるAIによって駆動され、気候危機や珊瑚が直面している脅威についての認識を高める作品。

- ・《[Seeking Solace](#)》 [Social Dive Projects\*\*] (ヒルダー・エリサ・ヨンシュドッティル [アイスランド])

荘厳で古代的なアイスランド民謡に乗せて出演者に極めて私的かつ人間的な告白をしてもらうことで、職場というコミュニティ一般における人間の本質的なテーマを探求するパフォーマンス作品。

- ・《[瓦礫の庭園](#)》 (ブシュラ・トゥンチ + ケレム・オザン・バイラクター [トルコ])

東京の工業空間、余白、境界等、定義されていない場所で記録した、ドローイング、グラフィック、3D映像からなるプロジェクト。都市空間とそこで育つ植物の生態系や、自然と都市の区別を曖昧にする新たなエコシステムに焦点を当てる。

- ・《[静かなる内](#)》 (ホズィーリス・ガヒード [ブラジル / ドイツ])

東京でのリサーチにおいて、孤独死が発生した場所を調査し、関係者等にインタビューを行い、サイトスペシフィックなビデオ・パフォーマンスを展開する。

- ・佐藤直樹：[その後の「そこで生えている。」 2014-2023](#) [CET2023\*\*\*]

グラフィックデザイナーとして活動しながら、「セントラルイースト東京」(2003-10)のプロデュースや、2010年の「アーツ千代田3331」立ち上げなどにも携わってきた佐藤直樹が、2014年から描き・つないできた植物の大型木炭画シリーズを会場で連結し、「東京ビエンナーレ2020/2021」でも発表された同シリーズの現在地を示す。

- ・《[A Wall Atlas of Drawings](#)》 (シエラ・キーリー [カナダ])

馬喰町でテキスタイルの豊かな歴史をリサーチし、その経験をドローイング・マップとして制作する。

- ・「東京のための処方\*」 マイリン・レ [アメリカ]

ダンサー・振付師でもあるアーティストが、会期中別会場で発表する[オリジナルダンス作品](#)のドキュメント展示。

・「東京のための処方\*」 ワンタニー・シリパッタナーナンタクーン [タイ] + ヨシダ・ケンジ  
シリパッタナーナンタクーンは、映像、パフォーマンス、サウンドスケープなど多様な表現手法を用いて、私たちの抱える社会問題を静かに浮かび上がらせます。[今回はヨシダ・ケンジとの協働による作品を発表。](#)

- ・「東京のための処方\*」 黒田菜月：[動物園の避難訓練](#)

写真・映像作品を制作する黒田菜月は、日常の隣接する危機に目を向け、「動物園の避難訓練」を通していつか出会うその時に向けて注意を促す。谷中・鶯谷・上野・御徒町エリアで実施する「まちが教えてくれるまち：ラーニング谷中」プロジェクト内で、未来定番研究所でも展示予定。

- ・「[キカンキ・キ 2023](#)」 [展示] (大木裕之+西村知巳)

2012、2013年の「TRANS ARTS TOKYO」、そして前回の東京ビエンナーレ2020/2021にて撮影された映像に、今年の東京ビエンナーレ2023会期中に撮影してゆく映像が組み込まれてゆき、変化してゆくシングルチャンネル作品が、展示会場のエレベーター正面のモニターに投影される。

## ▶ **\*\*\*CET2023 (セントラルイースト東京)**

2003～2010年に、空洞化していた東京の東エリアで行われていたアート・デザイン・建築の複合イベント「Central East Tokyo」(CET)。



この取り組みが実践した、場所性を活かす発想やインデペンデントなゲリラ精神を受け継ぎ、2010年代をまたいで開発が進んだ同エリアに囲まれた現在の横山町周辺において、その方法論をあらためて検証する。

<https://centraleasttokyo.com/>

### 📍 CET2023 (セントラルイースト東京2023) で鑑賞できるアーティスト・作品

- ・津村耕佑 《[夢夢神社](#)》 (アートディレクター、ファッションデザイナー)
- ・宇治野宗輝 《[dormbeat](#)》 (美術家)
- ・野老朝雄 + 小林泰聡 《[meat meet more meat](#)》 (美術家+ハンバーガープロデューサー)
- ・池田晶紀 [写真作品展示](#) (写真家、東京ビエンナーレ2023参加作家)
- ・カガリユウスケ 《[記憶の質感](#)》 (カバン作家)
- ・小川敦生 《[測量標](#)》 (アーティスト)
- ・[TMPR](#) (岩沢兄弟+堀川淳一郎+美山有+中田一会) “Tokyo Moving Point Researchers”の略 ※読みは「てんぷら」
- ・富川浩史 + 日山豪 + AISO 「[問屋の街の小さな階段](#)」 (建築家+音楽家+自動音楽構築システム「AIS0」)
- ・[池田光宏](#) (美術家)
- ・N/A (石川由佳子+金岡大輝) 「[Tiny Mud Park](#)」 (アーバニスト)
- ・[鈴木宏明](#) (Hyper Resort)
- ・[SOUNDS/NOISES curated by gift\\_](#) : 鈴木英倫子 (すずえり) / 津田貴司 / 松本一哉 (サウンド・アーティストのショーケース。企画はデザインユニット「gift\_ (後藤寿和・池田史子)」)
- ・ただ [写真作品展](#) (写真家)
- ・[金井聡一郎](#) 「Seam with us」 (アーティスト)
- ・[柳澤貴彦](#) 「monolith」 (画家)



- [Silent City](#) : 委細昌嗣 + 渦波大祐 + gift\_ (作曲家+建築家+デザインユニット)
- [CET Directors' TALK 2023](#) (佐藤直樹、馬場正尊、竹内昌義、原田マハ、gift\_、シミズヨシユキ)
- 「[東京 船ツアー](#)」 岩本唯史 (建築家) ほか
- グランドレベル (田中元子+大西正紀) 「Tokyo Bench Project 2023」

## 0 その他のエリアの見どころ

- その他のエリアで体験できるアーティスト・作品例
- 東京のうた (湯山玲子ほか)



東京は世界でも指折りの、地名由来のポップス、つまり「ご当地ソング」が多い都市。著述家・プロデューサー・おしゃべりカルチャーモンスターの湯山玲子さんが主導する「東京のうた」では、新宿、渋谷、原宿、銀座、浅草など東京の魅力と人々の心情を歌った歌・歌謡曲と、歌ごころある歌手たち、そして歌に描かれた「ご当地」の三者をつなぎます。一夜限りの東京タワーでのコンサートのほか、スナックやクラブなど、ディープな会場で多発的に行われます。

<https://tokyobiennale.jp/tb2023/event/songs-of-tokyo/>

- リレーションズ：批評とメディアの実践のプロジェクト (毛利嘉孝ほか)

現代美術が大きく変容する中で新しい「批評」の形を探ります。特にコロナ禍において、このウェブ・プロジェクトは、グローバル化の中で多様化する都市に焦点をあてて、多言語（日本語、英語、中国語、韓国語）による本格的な批評を紹介してきました。批評をアートの内部に閉じこめるのではなく、これまでアートに属しないと考えられていた他の領域との対話も積極的に模索していきます。ワークショップやシンポジウム、批評をめぐる教育プログラムなども展開していきます。

<https://tokyobiennale.jp/tb2023/linkage/relations/?lang=ja>

RELATIONS 特設サイト <https://relations-tokyo.com/>

東京ビエンナーレ2023 [秋会期]

9月22日（金）の自由内覧 / プレスツアー / オープニングパーティーへぜひご参加ください

お問い合わせ：広報窓口（若林、岩本、秋山）

一般社団法人東京ビエンナーレ

TEL：03-5816-3220 FAX：03-5816-3221

MAIL：pr@tokyobiennale.jp